○農林水産課長（池田　隆君）

議員に今お話しいただいたように、せっかくある森林資源、これについては有効に活用をしていくべく、今後も推進していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

補足してお答えさせていただきます。

非常に我々の、やはり一番このある資源は何かというと、やはり林野面積が広いということでございますので、そういった点に鑑み、もっともっとやはり積極的に対応してまいりたいと、私も考えておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

滝川議員。

○６番（滝川正義君）

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、滝川議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を１３時といたします。

〈午前１１時５９分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本　剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔３番　山本　剛君登壇〕

○３番（山本　剛君）

清政クラブの山本です。

１回目の質問をさせていただきます。

１、市内の電力供給について。

本年９月の北海道地震で、道内では全地域が停電になり、生活などに大きな支障が生じました。そこで、糸魚川市内の電力供給状況から非常時の対応について伺います。

(1) 市内には自家発電を有する企業、デンカ・明星社などがあります。その２社を除いた市内での一日の電力最大使用量と最少使用量はどの程度か。また、一般家庭・病院などの公共施設・商業施設・製造業などの比率はどうか。

(2) 「統計いといがわ」に発電設備の記載があります。発電所総数とあるが、その内訳を伺います。また、最大出力とあるが、通常どの程度の発電量か。また、５０・６０ヘルツの関係はどうか。また、この市内発電設備で市内の電力を賄えるのか。

(3) 東京発電・デンカ・明星社など「統計いといがわ」以外の発電能力は把握しているか。

(4) 糸魚川市は５０ヘルツの西の端にあり、被災時は６０ヘルツの中部電力、北陸電力もそうですけど、から融通ができず、危険は高い地域と思われます。そこで、非常時において病院や公共施設に「統計いといがわ」にある発電設備から優先的に使用が可能なのか。また、デンカ・明星社の自家発電の使用は可能なのか。技術的問題があると思うが、東北電力ほか各事業者と話し合いを持ったことがあるのか。

(5) 市役所・消防署を初め糸魚川総合病院などの非常用発電機を有する施設は、市内ではどの程度あるか。その発電量は非常時でも十分な能力か。

２、寺町地内における失火における責任問題について。

寺町地内における失火で「市職員（消防職員）の処分経過について」として、１０月２９日、総務文教常任委員会で報告されました。以下がその内容でした。

１、事案概要。

２、当該事案における処分内容。

３、経過。

４、今後の取り組みについてなど。

そこで以下について伺います。

(1) 消防署及び市としての再発防止等、その後の取り組み状況の経過を伺います。

(2) このような事案を受けて、市職員の地域行事への参加についてどう考えているか。

３、市内児童・生徒のスポーツ実施状況のその後について。

私は本年６月の一般質問で、少子化による団体スポーツが成り立たない状況にあり、教育委員会・体育協会・学校などの関係者が話し合うことを提案しました。そのとき教育長からは、関係者が集まり話し合う場を持ち、教育委員会に報告するとの答弁でした。

その後、９月の一般質問では、市長が「中学校の部活のあり方の方針」について協議していくとの答弁がありました。

そこで、以下について伺います。

(1) ６月定例会から半年が過ぎました。これまで教育委員会、定例会だと思われるんですけど、その報告がなされたのか。

(2) 今までの関係者と話し合いが行われたのか。その話し合いに誰が出席したのか。生徒（中学生・高校生）・保護者など、最も身近な代表が出席しているのか。

(3) 市長答弁の「中学校部活動に関する方針」は、いつまでに作成する予定なのか。

(4) 方針作成の主たる担当はどこか。また、担当者を決めて行うのか。

以上、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、使用量等については公表されておりません。

２点目につきましては、水力につきましては、３事業者、１０発電所。火力につきましては、１事業者、１発電所。バイオマスについては、１事業者、１発電所となっており、発電量については公表されておりません。

３点目につきましては、自家用の水力発電と火力発電については把握いたしております。

４点目につきましては、送電するに当たっての技術面や法的な整備が必要なことから、実施に向けては多くの課題があるとお聞きいたしております。東北電力とは、災害時の協定に関する協定を締結いたしておりますが、各事業者とは、今後さらに提携を深めてまいりたいと考えております。

５点目につきましては、全ての設置施設を把握いたしておりませんが、主な施設の燃料タンクの容量では、市役所本庁舎で約２０時間、消防本部庁舎で約２４時間、糸魚川総合病院では約７２時間の対応が可能となっております。

２番目の１点目につきましては、事案発生後、意識改革と不祥事防止を目的として、全職員を対象にコンプライアンス研修、不祥事防止研修を実施いたしております。また、消防本部でも独自に再発防止研修を実施し、全職員が危険予知訓練として不祥事を題材に情報共有や防止対策を話し合っております。

２点目につきましては、職員には、これまでどおり積極的に各地域の行事等に参画するよう呼びかけてまいります。

３番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。　〔教育長　田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

山本議員の３番目の質問にお答えいたします。

中学生の家庭学習時間の確保と、教職員の長時間勤務の是正を目的として、県の動向を踏まえ、こども教育課において、原案を作成いたしました。この原案に基づき、中学校長、市体育協会の正副会長と理事長、そして教育委員会事務局の３者で協議し、了承を得ましたので、１２月の教育委員会定例会で協議する予定といたしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

公表されてないから、１番の１、わからないというふうにあれなんですけど、例えば市役所の中で最も電力の使う時期というのはどんな感じでしょうか。把握してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的に空調設備を使う時期、例えば８月とか、これから今の時期といった時期が多く使う時期というように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

先ほど滝川議員もありましたけど、糸魚川の、いわゆる使用料と、いわゆる大企業を抜かしたその部分の部分と市内の発電量との関係、そこらあたりでどちらが勝ってる。多分、発電量のほうが多いと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

滝川議員の質問の中にもありましたけれども、千葉大学の研究グループが再生可能エネルギーの自給率、それから再生可能エネルギーの電力自給率というのを出しておりますが、エネルギー自給率で２０１７年３月末で１５３．９％、それから電力自給率でも２１５．２％という数字が発表されております。それを踏まえると発電量のほうが需要より多いのかなというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

今、発電量のお話したんですけど、これ市内に水力で３事業所１０、バイオマス、それぞれ１社、１つだと思うんですけど。これ発電所の数であって、発電所の中にはタービンを２つ、いわゆるタービンとか発電機ですね、対になってるもんだと思うんですけど。そこらあたりの数は把握しておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

数字上は、統計いといがわで公開してるわけですが、その中身というのは、新潟県が出しております新潟県の電力概況という資料からをもって公表してるとこでありますが、その中には認可出力、最大常時といった数字はあるんですけども、タービン等の数字が出ておりませんので、お答えすることができませんので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

３番目もあれなんですけど、デンカさんはかなりの水力を持ってると思うんです。それは入ってないというふうに思うんですけれど。電力自由化になってから、やはりそこらあたりも押さえる必要があるというふうに私は思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

いずれにしましても、電力の小売り部分が完全に自由化になったといったところ、さらに地産地消というものの考え方を進めていく上では、やはり市内の電力需要というのは、今後把握に努める必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

やはり市内の、いわゆる発電所、数も含めて。それと同時に発電機の数、やはりそういうのも把握することが重要なことだと私思いますんで、ぜひともやっていただきたいと思います。

あと発電機の中には、５０と６０がここの糸魚川というのは混在地域でして、その点、この発電は、５０と６０の関係はおわかりでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市内でも親不知を境に東が５０ヘルツ、西が６０ヘルツというようになっております。

また、発電設備におきましても、黒部川電力さんのホームページを見ますと黒部川電力さんでお持ちの発電所は、全て６０ヘルツで発電をしてるということでありますので、両方が混在してる、比較的特異な地域であるというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

本当に一部、市振と玉ノ木が６０ヘルツを使用していて、後は、昔は青海町が全部６０ヘルツだったと思うんですけど、それがもう４０年前ですかね。そのころにやはり全部５０に統一されました。市内の発電量があるといっても６０は、５０のとこで使えないんで、そこらあたりの把握も必要なんじゃないかというふうに思うんですけど、どうでしょうか。その点、量的なものも、わからないかな。ちょっと答弁いただけませんか、黒部がどうなのか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

これまでですと、例えばエアコンを関西から東京のほうへ持ってくるというと使えないという状態があったわけですけども、今、インバーター技術の中で両方使えるといった状況もあるというようにお聞きしております。

そうした中で、いずれにしても不便が現時点では、それほど多くはないのかなと思っておりますが、例えば新幹線の運行等においても変換装置が線路内に置いてあるといったことで、ある意味、設備の投資の必要な地域であるというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ちょっと視点があれかもしれませんけど、実は、６０ヘルツの送電線と、多分５０の送電線は別の話だと思うんですね。だから、電気的な機械、私も結婚するまでは糸魚川に住んでおりました。青海に行ったときに、やはりステレオなんか回転数が変わって使えなくなるというか、回転数が変わりますんで、そんな経験はあるんですけど。今、電気は６０と５０は、やっぱり使えないんだと思うんですね、送電線の関係ですね。ですから、糸魚川が何かがあったときには、いわゆる中部電力、長野のほうですね。それと北電、そちらの送電線とは、やっぱりつながらないというような状況が現実にあると思うんです。そういう部分で、この糸魚川というところは、５０ヘルツの最も西の端で、送電線も何本かあるんだと。東北電力から聞きましたら２本ぐらいあると話してました。それも逆に言うと自然災害で、もし何かが起きたときには、もう本当に富山のほう、長野のほうからの送電は無理だということになりますので、そこらあたりが非常時、かなり厳しいんじゃないかなというふうに考えてます。

それで、送電線の数は把握してますでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

申しわけございませんが、把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

糸魚川の場合、本当に地震だとか水害だとか、そういうことで鉄塔が倒れたときにやはり電気が送られてこないということだと思うんですけど、逆に言いますと、じゃあ糸魚川の電気はどこでできたものだというふうに理解してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

その点について、電力会社にお聞きしましたところ、電気に色がついてないので、どこの電気かというのはわからないというご回答を頂戴しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

逆に言いますと、糸魚川にある３事業所、その電気は逆にどこに出ているのかも把握していませんでしょうか。いわゆるどこで使われとるかということだと思うんですけど、例えば東京発電は、糸魚川でないというふうに聞いてるんですけど、そこらも含めて。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

黒部川電力さんにつきましては、６０ヘルツということで北陸電力のほうに供給されてると聞いておりますし、東京発電につきましても東京電力管内の子会社ということでありますので、東京電力のほうに供給されている。また、火力発電所、ＩＰＰ１４万９，０００キロワットにつきましては、東北電力に供給契約を設立当時に結んだというように聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ほかに本当に市内のセメント工場の排熱発電というのも、実はあるんですね。私、デンカにおりましたので余りあれですけど、やっぱり設立が大正のころでしたんで６０ヘルツですね。青海工場が主に６０ヘルツで田海工場と言われる部分が５０ヘルツ。市内にある火力発電所もあるんですけど６０と５０の部分があります。聞きますと、今新しく青海川の上で水力はつくってますけど、それは５０だというふうにも聞いております。

そういうことで、市内で起こされる電気イコール糸魚川市内で使えるということではないというふうに理解しております。そこらあたりもやはりちゃんと調べておかないと非常時のときだとか、そんなことはできないかと思うんですけど、そういう話し合い、やはり市内で東北電力ばっかりじゃなくて、やっぱりそういうことが話し合いの場が必要だというふうに考えます。先ほどの答弁でもやはりそういうふうなんはいただきましたけど、いま一度、その件について答弁いただきたいと思いますけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今回も東北電力と協定を結んでいる関係で、いろいろなやりとりというのはあるわけですけども、今後、今発電設備をお持ちの会社とも話し合う機会をつくっていきたいなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

本当に私は、この糸魚川というところは本当に、ある面では、今言ったように５０ヘルツの西の端で、そういう面ではかなり厳しいところがあるんではないかなというふうに考えております。

ちなみに聞いてみましたところ、東北電力では、送電線が何か２本あるようなことを言ってますけど、２本ともやられるということはなかなかないのかもしれませんけども、でも想定はしておかなきゃいけないんじゃないかと。そうなったときに市内である発電所、そっからやっぱり融通が必要なんじゃないかなというふうに考えますので、ぜひともそういう機会を持ってやっていただきたいというふうに思います。

改めて市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

冒頭でもお答えさせていただきましたが、非常に近年、発電と売電というような形ですか、仕様のほうは少し分かれてきておる部分があって、余計ちょっと複雑になってる部分がございますので、

その辺をどのように整理していくかということも課題であったり、今のご指摘の点の皆さん、議員ご指摘の点についてもそういったところがあるやに受けるわけでございまして、そういうようなところをどのようにこれから、災害に遭ったときの対応は、やはりどうするべきかというのは大きな課題であると思いますので、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

直江津に火力発電所があるんですけど、それは中部電力の発電所で、ですから６０ヘルツだと思うんですね。聞いたところ、あそこにまた何か東北電力も火力を今というような考え方してるみたいですけど、私、確かに新潟からそういうとこから送られてくる電気というよりも地産地消で、やっぱり糸魚川で起きた電気は糸魚川。送電ロスもありませんし、そういうことは必要だし、先ほど滝川議員のあれでもやはり地産地消ということは大事なんでないかなと思います。

実は、富山県の隣の朝日町、再生エネルギーの地産地消ということで、朝日町は本年度から再生可能エネルギーの事業化に向けた研究調査を始める。太陽光発電とバイオマス設備を導入できるかどうかを検討した上で、売電ではなく、町内の公共施設に電気を供給する地産地消型の利用を目指す。町によると、北陸３県の自治体では初めてというようなことで、要は、今年度からそういうことの勉強というか、あれをするというふうに隣の朝日町でやってます。

私は、この糸魚川というところは、南側に北アルプスを持って水力発電、すごくいいとこだと思いますし、それこそ本当に日本の中でもトップクラスの、いわゆる水力なり、そういうふうな地域だと思うんですね。それと同時に、先ほど滝川議員も言いましたように森林、バイオマスに使えるものだというふうに思ってます。やはりそこらあたりを地産地消ということを、ものを考えたときには、やはりこれから考えていかないと、市の永続的な、いわゆる経済活動も含めて、やっぱり厳しいんじゃないかと。

電気化学は、大正ぐらいに青海工場にカーバイトをつくる、肥料をつくる会社としてやりました。ここでもう１００年近くの大きな事業として、糸魚川の、いわゆるためにかなり頑張ってくれとると思うんですけど、その主たる原因は、やはり私は石灰石よりもこの電力だというふうに思ってます。現実に、デンカの幹部の方が、ある方が聞いた方は、例えばデンカがつぶれてでも糸魚川の水力発電、それだけで十分事業として成り立つんだよというふうに聞いてます。だから、そういうことを考えたときには、やはり糸魚川で地産地消の電力ということを真剣に考えて、やっぱり進めていくことが大事なことではないかと思うんですけど、市長、その点をもう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

私もやはりこの地の利をどのように生かしていくか。そしてまた、市民生活にどのように還元していくかという中においては、非常に私も水力に対しては、魅力を感じておる部分がございます。

しかし、水力は非常に初期投資がかかる部分がございまして、その辺を私まだまだ入り口論でしか、まだ研究してなかったわけでございますが、その辺を感じたもんですから、なかなかそれより中へ入っていかなかった部分がございますが、これからの中においていろんな面で、災害時、またはこれからの持続する社会を構築するには、やはり資源の持っておるところが、その資源をどのように生かしていくかというとを考えたときには、本当にやはり初期投資が大変であっても検討してみる必要があると捉えておる次第でございますので、これについては少し深く検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

次、非常時のことについて。非常用の発電、先ほどの答弁では、市役所で２０時間、消防署で２４時間、糸魚川病院では７２時間、市内にもう一つ吉田病院なんかあると思うんですけど、そこらはいかがなんでしょうか。把握してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

丸山消防長。　〔消防長　丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

吉田病院の施設については、把握しておりません。私ども消防本部ですと、屋内消火栓、それからスプリンクラーのあるところについては、非常用電源を設けろということになっておりますので、消防設備の届け出の際には、非常電源があるかということはチェックするんですが、それは必ずしも発電機でなくてもよくて、専用の自電であればよろしいもんですから、私どものほうでは、個々の施設がどの程度の、屋内消火栓を賄う発電機を持ってるということは把握できるんですけども、その施設の電気を賄う発電機を持ってるかということについては、把握をしておりませんので、申しわけございませんが、わからないという答弁とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

東北電力も非常発電車を持ってるというふうに聞いてるんですけど、その点いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

丸山消防長。　〔消防長　丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

先ほど申し上げました消防設備の資料を少し調べてみたところですが、東北電力株式会社糸魚川営業所さんにつきましては、非常時の電源用の発電機を持ってるということが、消防設備の書類か

らは確認しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

市内では、市役所、消防署、糸魚川病院があるんですけど、逆に言いますと、東北電力の発電車を優先的にどこに配置するのか、そこらあたり検討したことがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

丸山消防長。　〔消防長　丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

訂正させていただきます。

先ほどの答弁、建物、施設の発電機という捉え方でお答えしてしまいました。それは先ほどの答弁と違うことをお答えしました。

それから、電源車を東北電力は持っておられます。台数までは確認しておりませんけども、東北電力との応援協定の中では、災害時においては、病院、総合病院、それから災害対策本部を設置するような官公署、それから避難所、そちらについては優先的に電気の供給をしますという協定を結ばせていただいております。その協定の中で東北電力さんがお持ちの電源車を活用するということは、東北電力さんの判断によりますけども、そちらを活用するなどして、優先的に電源を供給するという協定になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

今の答弁の中に、東北電力が選択するようなことを言ってますけど、私、やはりちょっと違うんじゃないかな。やはり市のほうで、災害のときにはここに重点的にその車を持っていく。やっぱりそういう優先度を決めておかなきゃいけないんじゃないかというふうに考えるんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、電力さんが中心にということで答えておるわけでございますが、訂正させていただきたいと思っております。

やはり対策本部を設置し、そして、その中で最優先なところはどこに行けばいいのかというのを早急に決断し、そちらに素早く供給していくという体制にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

答弁ありがとうございます。

やはり災害ですから、いつ、どんな形で起きるかわかりません。でも少なからず、やはり優先度を決めておくということがやっぱり必要で、その場においてどうだということよりも、やはりある程度の方針を決めておくということが必要だというふうに思ってます。ぜひともそこらあたりも含めて考えていただければというふうに思います。

北海道地震のときに電気自動車、今かなり主流になりつつあると思うんですけど、それによる携帯電話の電源をとるとか、いろんなことが可能だと。１台の電気自動車の電気で、家庭分の３日分ぐらいは十分に保てるんだというふうな報道もありました。そういう部分を考えたときに、糸魚川市役所が持ってる、市の持ってる、いわゆる車ですね、そこらあたりも電気自動車を、例えば１割だとか、５％だとか１割だとかふやして、そういう対応にということも考えるのも大事なことではないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在の市役所の中には、電気自動車１台を所有しております。今後、今、ＥＶ化といった流れの中では、そういった視点も必要でありましょうし、今ご指摘の災害時に対応したものとして、電気自動車といったことも必要だというように考えておりますので、今後、車の買いかえ等においては検討してみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

先ほどの答弁にちょっと戻りますけど、糸魚川で、やはり企業誘致ということをよく言われてましたけど、なかなかやっぱりどこの市町村もやってると思うんですね。でも先ほど言ったように糸魚川の水力も含めた、いわゆるバイオマス発電も含めて電力で優秀になれば、それだけのものがあれば自然に将来的に集まってくるんじゃないか。逆に言うと、今、温暖化で化石燃料がなかなか使えなくなる時代だと思うんですね。そうなったときに糸魚川市にそれだけのエネルギーを持ってるんだぞということが大きな武器になると思いますので、電力のほうは、やはり本気になって考えて、滝川議員も言うようにやっぱりこれからの２０年、３０年先はやっぱりエネルギーの持ってるところが勝つというふうに私は思ってますので、ぜひとも考えて、前に進めていただきたいというふうに思います。

次に、寺町地内の火災におけることですけど、市役所でも３日か４日に分けて教育やられるというふうに聞いてますけど、その反応、どういうふうに感じましたでしょうか。教育して、その職員

がどんな反応なのか、ちょっとお聞かせいただければと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

不祥事の防止研修につきましては、２２回開催をしております。なぜこの数になったかといいますと、職務につきながらローテーションで受講していただきたいということで、実施させていただきました。

この中で職員に聞きますと、改めて認識したという部分もあったように聞いておりますんで、今後も繰り返しやっていくと。意識改革を図っていくということが非常に大事かなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

消防署のほうはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

丸山消防長。　〔消防長　丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

消防職員につきましては、まず、先ほどの答弁にもありましたが、各中隊ごと、それから各課ごとに各職員が、この不祥事事案について話し合う、ミーティングというのをやっております。事案が起きて、報道された以降の１０月下旬から１１月初めにかけて１回、それから不祥事防止研修を受けてから、その受けてどう思ったかということで１回、それから先日来、他の消防本部で不祥事がありましたので、それを受けてもう一回やってくれということで、今取り組んでいるとこなんです。

その中で、今、不祥事研修を受けて、出た意見の中では、公務員としての今回の事案についての原因としては、公務員としての周囲の目のあることや、信頼を失う行為をしたことについての自覚が足りない。それから見て見ぬふりはしない。コミュニケーションが必要だ。あるいは一方的にしてはだめだということではなくて、こういった話し合いを持つことが大事だとか、そういった研修を受けて、当然受けたらこういった処分があるのも承知した上で、こうやって改善していこうという意見が出されております。これについては、引き続きミーティングをやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ぜひとも教育、やはり必要だと思います。教育したから必ずしも今回の貴ノ岩じゃないですけど、教育したから必ずそうなることはなりませんけど、それでも重要なやはりそうやってお互いに確認し合うことが大事だというふうに思いますんで、今後とも頑張っていただきたいというふうに思います。

総務文教常任委員会の中で、今後の取り組みの（５）番に懲戒処分に関する運用、糸魚川市懲戒処分等の公表基準の策定、運用開始というふうに今後の取り組みにあるんですけど、そのことにお伺いいたします。その後の経過、わかりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

公表については、不祥事防止マニュアル等で明記してあったわけで、書いてあったわけですけども、その具体的なルールといったものが不明確でありました。そういったことから、職員の懲戒処分等の公表基準というものを制定させていただいております。

この中では、懲戒処分を行った後、速やかに公表するものというようにあったんですが、それに加えて、事案発生後、重大な職務上の非違行為については、速やかに公表するといった文言をつけさせていただいたり、あるいは公表の方法も市のホームページといった限定だったんですが、市のホームページに、プラス報道機関への情報提供といったものも加えさせていただいて、ルール化を図っているとこであります。

ただ、今後もいろんな事案が出てくる中で、見直しも必要だろうというように考えておりますので、必要に応じて改善をしながら公表に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ぜひとも進めていっていただきたいと思います。これでき上がってるんですか、それともまだ計画というか、その段階ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

公表基準については、既にでき上がっておりまして、今、市のホームページで公開をしてるとこでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

次に、（２）職員の、いわゆる地域行事への参加についてです。先ほど市長のほうから積極的にとありました。私、今回のこと、この職員、地域リーダーとして本当に頑張ってる。賞賛したいというふうに思っています。やはり昨今、いわゆる都市化してきて、その地域行事になかなか成り手がなく、参加もしない。そのリーダーにもならないという現状があるかと思うんですね。そんな中で、市の職員がこういうところのリーダーとしてやったことについては、やはりすごくいいことだと思う。

ただ、やったことがやはりちょっと重大で、大きなミス。それは大いに反省していただかなきゃいけないかと思うんですね。人材育成という部分から見ても、やはり失敗を、我々市民も議会もやっぱり寛容にならなきゃいけないというふうに思ってます。やはり悪意でやったことであるんなら、徹底して追及しなきゃいけないかと思うんですけど、やはり人間にはミスがつきものです。ですからもっと寛容になって、もっともっとそのリーダー、市の職員あたりはやはり地域のリーダーなり、そういうことになって公のために、皆さんのために頑張る姿を見せることがやっぱり大事だというふうに思います。その点、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ありがとうございます。お答えいたします。

やはり職員においてもやはり一市民として、職務を離れれば市民生活に入るわけであります。そういう中において、自分の持ち得るその知識を最大限に生かして、地域のコミュニケーションの発展に対して努めるべきと捉えとるわけでございますので、そういったところをまたいろいろ研修の中であったり、また指導の中で発揮させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

なかなか個人的なことで難しいんですけど、消防長、当の本人はどんな雰囲気でおるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

丸山消防長。　〔消防長　丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

本人は、大いに反省しております。反省をした上で地域の活動には、引き続き参加しておりますし、責任を果たしていくということで、今、会長についてるわけですけども、去年から会長になって、会長は２年の任期だということで、その後の任期はわかりませんが、今回の任期については、頑張って務めていくということを言っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ありがとうございます。ちなみには、来年はその行事をやめようという話も伝わってきます。私は、やはり失敗は失敗として、逆に来年こそ、ことし以上のことをすることが責任ではないかというふうに思ってますんで、ぜひとも消防長からも市長からも声をかけていただいて、いわゆる地域のリーダー的な立場に立つことがすばらしいことなんだというふうに伝えていただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

次に、３番目、子ども一貫教育の基本計画の中に、「ひとみかがやく　日本一の子ども」というふうにうたわれてます。「ひとみかがやく」、いわゆる子供が最も瞳を輝くときというのは、どんなときというふうに、教育長、理解してますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。　〔教育長　田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

子供たちが、自分の夢を自分で描いて、自分でかなえるように、そういう教育環境をつくるのが、教育委員会、あるいは市の役目だと思っております。そういう環境の中で、子供たちが自分の力を発揮して、人からも認められる、役に立ったというところを感じることができる、そういう姿を見ることが一番輝いてる時期かと思っております。そういう子供がたくさん糸魚川市に育つように、子育て施設、また子育て支援、あるいは一貫教育の推進を図ってまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

私は、何度も言いますけど柔道をやっておりました。実は、柔道で個人戦というのと団体戦というのがあります。個人戦で優勝したら、みんなガッツポーズもします。でも本当に瞳が輝いてる瞬間は、団体で勝ったときなんですね。もっと言うと個人戦ではなかなか力が発揮しないのも、団体になるとみんなのためといって、頑張る子がかなり多いです。そういう部分では、やはり団体スポーツというのは、本当に瞳輝く、人からも、俺も頑張ったんだぞと言える、やっぱりそういうときだというふうに思います。

ところが、昨今やっぱり団体スポーツがなかなかできない。少子化だとか、そういうことによってできないと思う。そういうことでやはり先ほど市担当、中学校校長会とか、体育協会含めてというような話がありましたけど、ぜひとも、小学生あたりは別としてでも、高校生、中学生の意見を聞く会、やっぱり持っていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

まず、学校長に春の段階で団体スポーツについて聞きましたが、ことしは、まだ何とか間に合うという返事でしたが、だんだん減っていくので、子供たちの話も聞かなきゃいけないなということで、共通理解をしております。またそういう機会を見て、やっていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

私は、中体連とか高体連が、やはりそこらが方針を出さないとだめだというふうに思ってるんですね。いわゆる今のスポーツは、中学校単位ですよね、大会は。それが地域単位になるとか、やっぱりそういうことにしていかないと、なかなかやっぱり糸魚川市の教育委員会だけ、それだけでは。もっと言うと新潟県の教育委員会も含めてですけど、そこらあたりがそうしようと言ってもなかなか難しいんだろうと思うんです。だから、全国運動を動かす必要もあるんだと思うんですね。例えば高体連も中体連もそうかもしれませんけど、２つの学校が一緒になって野球のチームをつくるとか、いろんなことをやってますけど、やはりそれではなかなか瞳は輝かないと思ってます。

とは言いながら、市としてなかなか上部の、いわゆる国・県があった場合にできないんですけど、でも今のうちにやはりそういう意見を聞いて、それなりきのやっぱり皆さんの意見を聞いて、声を上げていくことというのは最も重要なことではないかと思います。

人に笑われるかもしれませんけど、私なんかは糸魚川中学校も青海、能生、東中学も含めて、糸魚川中学校にして、青海校、能生校、東校、そして、そうすれば今の制度でも糸魚川中学校として団体に出場できますよね。それなりきのやはりスポーツ、何でもそうかもしれません。勝たないとやっぱり燃えないもんです。そういう部分では、いろんな知恵があるかもしれません。今の言ったことが可能だとは思いませんけど、そういうことも含めて、いろんなことをやっぱり考えておくということが必要だというふうに思ってますので、ぜひとも早目に進めていっていただきたいというふうに思いますけど、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常に斬新な考え方を提案いただきました。１つの物の見方だな、それは。そういう見方もあるのだなというのを本当に感じております。いろんな生徒がおる中において、やはり生徒個々の、やはり自分たちの夢・希望というものはあるんだろうと思っております。なるべくやはり多くの、個々の意見を聞く中で、なるべくそれに沿っていけるような体制をつくっていくのが学校であり、地域、また家庭でなかろうかなと思いますので、また教育委員会の中においてもそういうのは、やはり必要だろうということの中で、また会議の中でしっかりその辺を論議していきたいと思ってお

ります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ありがとうございます。昨今、本当に教員の、いわゆる多忙化、新聞をにぎわせてましたけど、やはりそれも含めて地域で育てていかなきゃいけないというふうに思ってますんで、そのためにはやっぱりまず最初の話し合いだというふうに思います。ぜひともそういう視点で進めていっていただければと思います。

以上、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を１時５５分といたします。

〈午後１時４７分　休憩〉

〈午後１時５５分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤　孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。　〔７番　佐藤　孝君登壇〕

○７番（佐藤　孝君）

日本共産党の佐藤　孝です。

通告書に基づいて１回目の質問をさせていただきます。

１、働き方対策について。

(1) 会計年度任用職員導入について。

① ２０２０年から導入される「会計年度任用職員」について、その概要と準備（実態把握、任用根拠の明確化と適正化、制度の整備）の進捗状況について伺う。

② 総務省の原案では、パート型、フルタイム型を問わず「会計年度任用職員」に対して給料・諸手当を支給するとあったものが、成案ではパート型について、切り離して期末手当